

# 季刊せいいてん no.119

2017夏の号

●浄土真宗聖典の学習誌●

特集

## 地獄と仏



真宗〈悪人〉伝／唯善(下) 幸せてなんだろう／わかっちゃいるけど…  
『歎異抄』／第9条 「正信偈」／善導大師① もう1人の「親鸞」／夢告伝説

NO.119

季刊

せいてん

2017.6.1(夏の号)

特集

## 地獄と仏

「地獄と因果論—その意義と注意点」ほか …… 満井秀城ほか 3

「地獄の聞き方」ほか …… 高田文英ほか 44

はじめの一步Ⅰ

## 真宗〈悪人〉伝⑧

唯善(下) …… 井上見淳 9

はじめの一步Ⅱ

## 幸せってなんだろう—悪人正機の倫理学②

わかっちゃいるけど、やめられない …… 藤丸智雄 16

聖典セミナー

『歎異抄』⑩ 第九条 一念仏申し候へども… …… 矢田了章 22

せいてん誌上講演

「正信偈」⑱ 善導大師(1) 浄土教を救った高僧 …… 梯 實圓 30

もう1人の「親鸞」②

「比叡山時代の夢告伝説」 …… 黒田義道 40

ジョード・シンシュー・アイスブレイク (終)

「ありのままに Just As You Are」 …… タカシ・ミヤジ 54

聖典こぼれ話 (終)

「フォントのホントの話」 …… 田中真英 55

法語随想 悲しみとともに②

「〈帰命〉は本願招喚の勅命なり」 …… 溪 宏道 56

読者のページ せいてん質問箱(終)

『御文章』の仮名遣いはなぜバラバラなの? …… 能美潤史 58

人ひとみな いろ、といろ②

「新緑の中で」 …… とよだまりさ 63

お寺はいま 島根県大田市・瑞泉寺

離郷門信徒の集い …… 64

西の空 心に響くことば

くだりざか …… 榎本栄一 67

文中写真／編集室

お読みななる前に…文中に(〇〇頁)とあるのは『註釈版聖典(第二版)』、(七祖〇〇頁)とあるのは『註釈版聖典 七祖篇』のページ数を指しています。

# 幸せってなんだろう

## —悪人正機の倫理学—

### 第2回 「わかっちゃいるけど、やめられない」

総合研究所副所長 藤丸 智雄 ふじまる とも お



倫理学では、善悪の内容  
について考えますが、それ  
だけでなく、「なぜ悪をなし  
てしまうのか」についても  
考えます。なぜなら、善悪  
を知ること、善悪を行う  
ことは同じではないから  
です。人間は、悪いことだ  
と知っていても、悪をなす  
ような存在なのです。

善悪を知ること、善悪  
をなすことの違いについて、  
今回は考えてみましょう。

(イラスト 瓜生智子)

## NOしか言わない二歳児

甥っ子三人がお寺で元気に生活していることは前号でご紹介した通りですが、三人の甥っ子には、みんなに「イヤイヤ期」がありました。

真冬にパンツ一枚で二歳の男の子がほっつき歩いてると想像してください。当然、母親は厳しく注意します。

「風邪ひくよ。ズボン、はきなさない」

「いや！」

「じゃあ、パンツのままでもいいさ」

「いや！」

「ズボンはくの、はかないの（怒）」

「いや〜（絶叫）」

「いったい、どうしたいの」

「いや〜（さらなる絶叫）」

こういう理解不能な事態が、イヤイヤ期には、しばしば起こります。

これは二〜三歳児に特有のもので「第一次反抗期」・「魔の二歳児」とも呼ばれます。親御さんたちは、ずいぶんとこの事態に悩まされます。うちでも、それはそれは大変でした。

### イヤイヤ期は自由を楽しんでいる

私自身もかなりてこずったので、子どもの心理学に詳しいスクールカウンセラーI氏にアドバイスを求めました。するとI氏は、とても丁寧に教えてくれました。

「イヤイヤ期はとても大切な時期なんです。赤ちゃんの間は、受け身でしか生きられなかったですよ。それが、自分はどうしたい、こう思うと自己主張できるように

なるのです。自分の思いを表す（自由）を楽しんでいる時期なので、大切な成長の過程と思って、見守ってあげることが大切です。NOに子どもたちの自由獲得の喜びが表れているんですよ。」

このアドバイスをもらってからは、「しっかり自由を満喫しろよ」と少しだけ大らかな気分で対応できるようにになりました（もちろん、それでも相当に手を焼きましたが……）。

このように、幼児期にYES/NOを選択する能力を発達させ、人間は、主体的に是非を選択しながら生きるようになります。

この力がなければ善悪を判断し、善を選択し悪を回避して生きることができません。「いやNO」と拒絶する力は、倫理的な意味でも非常



に重要な意味を持っているのです。

## NOと言えない心理

### —服従の心理についての実験—

しかし、私たちは本当に善悪をきちんと選んでYES/NOが言えるのでしょうか？

一九六一年から一九六二年に、アメリカのイエール大学で、非常に興味深い実験が行われました。スタンレー・ミルグラムによって行われた「服従実験」(註1)と呼ばれるものです。

実験に参加するのは実験を指示(命令)する実験者(実験の立役者)と被験者二名。被験者の一人は問題を出す役、先生役を、もう一人は質問に答える役、生徒役を担当します。二人は壁で隔てられた部屋にそ

れぞれ入ります。互いの姿は見えません。そして先生役はマイクに向かって簡単な問題を出し、間違えると生徒役に電流が流れるスイッチを押します。

最初は45ボルトという弱い電圧から始まりますが、生徒役が間違えるたびに電圧は強くなっていきます。

75ボルトでうめき、120ボルトで実験の中止を求め、180ボルトで「死にそうだ」と声をあげ、270ボルトで絶叫し、330ボルトを超えると反応がなくなります。そして、最終的には450ボルトまで電圧は上げられます。先生役が実験の継続をためらうと、実験者が「続けてください(continue)」と実験の継続を促します。

さて、皆さんが、もしこの実験に先生役として参加したら、どう行動

しますか？途中で実験を止めますか？それとも、生徒役の人が気絶しているかも知れないのに、指示に従って実験を続けますか？

結果は、2/3の人が実験者の指示のままに、450ボルトまで電圧を上げました。性別、職業、学歴等によって結果に違いが出ることもありませんでした。

さて、種明かしをしておきましょう。実は、生徒役はサクラです。実際には電流は流れていません。苦しそうな迫真の演技をしているだけだったのです。少し悪趣味とも言えるこの実験は、いったい何を調べようとしたのでしょうか？

## 普通の人が悪をなす

この「服従実験」は「アイヒマン



実験」とも呼ばれています。

アドルフ・アイヒマン（一九〇六一九六二）はユダヤ人の大虐殺（ホロコースト）において、何百万人ものユダヤ人を強制収容所へ送り込みました。大戦後、アルゼンチンで身を隠していましたが、結婚記念日の花束を購入したところを、イスラエルの諜報機関によって拘束されます。

イスラエルで裁判（アイヒマン裁判）にかけられ「命令に従っただけ」と無罪を主張しますが、「一人の死は悲劇だが、集団の死は統計上の数字に過ぎない」という有名な言葉を残して処刑されます。

このアイヒマン裁判の映像は世界中に配信され、人々を当惑させました。なぜなら彼が「普通の人」だったからです。誰もが、悪魔のようなアイヒマン、大悪人でサディスティ

ックなアイヒマンを想像していたにもかかわらず、彼は普通の人だったのです。

アイヒマン裁判は、普通の人が巨悪をおかすという「信じたくない」事実を私たちに突きつけました。そしてミルグラムの行った「服従実験」は、善悪をわきまえた普通の人が、NOと言わず服従して「他者を傷付ける」ことを証明したのです。

### 聖典に見る善悪

読者の皆さんの中には、もうすでに、『歎異抄』第十三条（八四二頁）や『口伝鈔』第四条（八七七頁）に記されている「千人ころし」のエピソードを想い起こされている方がいるかもしれません。『歎異抄』第十三条には、親鸞聖人と唯円房との

次のようなやり取りが記録されています。

「唯円房はわたしのいうことを信じるか」

「はい、信じます」

（中略）

「まず、人を千人殺してくれな  
いか。そうすれば往生はたしかなものになるだろう」

「聖人の仰せではありませんが、わたしのようなものには一人として殺すことなどできるとは思えません」

（中略）

「これでわかるであろう。どんなことでも自分の思い通りになるのなら、浄土に往生するために千人の人を殺せとわたしがいったときには、すぐに殺すことができるはずだ。けれども、思い通りに殺



すことのできる縁がないから、一人も殺さないだけなのである。自分の心が善いから殺さないわけではない。また、殺すつもりがなくとも、百人あるいは千人の人を殺すこともあるだろう」

〔歎異抄（現代語版）二二六―二八頁〕

この第十三条でも、心のままに行動できないことが指摘されています。本条では、殺そうと思っても殺せない例から始まりますが、当然、逆も成立しなくてはなりません。まさしく親鸞聖人のお言葉は「害せじとおもふとも、百人・千人をころすこともあるべし」（八四三頁）という内容で締めくくられています。殺してはならないと思っても、縁があれば、殺せという指示のままに殺すことがあるというのが人間のありようなのです（註2）。

そして、思うままに善悪をなしえないからこそ、私たちに、善悪を問うことのない阿弥陀如来の絶対他力の救いが必要なのです。

### 善悪を知ること

#### 善をなすことの遠く

倫理学は「善とは何か、悪とは何か」について研究するとともに、なぜ人間が悪をしてしまうのかということについても問いかけます。

私たちは、たとえば嘘をつくこと、人を殺すことが悪であると知っています。知っていれば、悪を行わなければ良いわけですが、人間の歴史を見ていくと、すさまじい悪が行われてきた事実には驚き、失望せざるをえません。そして、今も世界各地で、虐殺が繰り返されています。

私たちは、善を知っているから、善を行うわけではありません。悪を知らないから悪を行うわけでもありません。善悪を知っていることと善を行うことは、はるかに遠いことだらなのです。だからこそ、善悪を知っているでも、なぜ悪を行うのかについて、きちんと考えなければなりません。それが、倫理学の重要な課題の一つです。

### 映画館で聞こえてきた声

先日、ミルグラムの「服従実験」を描いた映画『アイヒマンの後継者』ミルグラム博士の恐るべき告発』を、新宿の映画館で観てきました。映画が終わったあと、何が起こったと思いますか？

映画の中では、実験を経験した人



が誰かに実験のことを説明すると、その相手が「私なら途中でやめる」と反応するエピソードが繰り返してきます。このエピソードは、悪をなすおそれが誰にでもあることが、自分のこととして受けとめにくいことを意味しています。

ところが百分程の映画が終わり、エンドロールが流れ始めると、映画館のあちこちから「私だったらやめるわ」という声があがったのです。繰り返しになります。映画のテーマは、「私（のような善悪が分かっている人）は、悪をなさない」ではなく、「私（のような善悪が分かっている人）も、悪をなす」です。このとき、悪をなすことを、自分のこととして受けとめにくいことが、私の中で確信となりました。

## 悪への問いかけ

私たちは成長の過程で、主体的に判断し行動する力を得ます。しかし、人間は善悪を知っていても、なかなか実行できません。なぜなら、善悪を判断する力を得て善悪を知ると、自分が善人になったと考えてしまうからです。これは錯覚で、そこから「なぜ悪を行うのか」という問いが始まるだけです。

悪を容易には避けられないと説く真宗の教えは、よい心を持っていても、なぜ悪をなすのか、という倫理的に重要な問いかけとなっています。

註1 実験の詳細い内容については、スタンレー・ミルグラム著／山形浩生訳「服従の心理」(河出文庫)を参照してください。  
 註2 『歎異抄』第十三条の「縁」「業縁」については、『註釈版聖典』補註5「業・宿業」を参照してください。





# 季刊せいてん

## バックナンバーのご案内 (在庫分)

116号(秋の号) 2016年9月1日

- はじめの一步I  
真宗(悪人)伝⑤(井上見淳)  
「慈信房善鸞(上)」
- はじめの一步II  
「物語」で読み解く仏教⑪(野呂靖)  
「一生不犯 その一」
- 聖典セミナー  
「歎異抄」⑦(矢田了章)  
「第六条一弟子一人ももたず」
- せいてん誌上講演  
「正信偈」⑮(樺實圓)  
「曇鸞大師(2)他力のこころ」
- 和讃で学ぶ浄土真宗⑦  
「念仏者の利益」(佐々木隆晃)



表紙●特集「伝統とその由来」より



表紙●特集「仏教説話」②より

110号(春の号) 2015年3月1日

- はじめの一步I  
戦国時代の本願寺③(金龍静)  
「顕如上人と本願寺」
- はじめの一步II  
「物語」で読み解く仏教⑤(野呂靖)  
「六道之沙汰」
- 聖典セミナー  
「歎異抄」①(矢田了章)  
「前序」
- せいてん誌上講演  
「正信偈」⑨(樺實圓)  
「お念仏の道を伝えた高僧たち」
- 和讃で学ぶ浄土真宗①  
「人間のすがた」(佐々木隆晃)

117号(冬の号) 2016年12月1日

- はじめの一步I  
真宗(悪人)伝⑥(井上見淳)  
「慈信房善鸞(下)」
- はじめの一步II  
「物語」で読み解く仏教(終)(野呂靖)  
「一生不犯 その二」
- 聖典セミナー  
「歎異抄」⑧(矢田了章)  
「第七条一念仏者は無礙の一道」
- せいてん誌上講演  
「正信偈」⑯(樺實圓)  
「道綽禪師(1)末法を生きる」
- 和讃で学ぶ浄土真宗(終)  
「念仏者の生活」(佐々木隆晃)



表紙●特集「私の名著」より



表紙●特集「お仏華を知ろう」より

111号(夏の号) 2015年6月1日

- はじめの一步I  
戦国時代の本願寺(終)(金龍静)  
「顕如上人と本願寺」
- はじめの一步II  
「物語」で読み解く仏教⑥(野呂靖)  
「妖怪と仏教」
- 聖典セミナー  
「歎異抄」②(矢田了章)  
「第一条」
- せいてん誌上講演  
「正信偈」⑩(樺實圓)  
「龍樹菩薩(1)大乘の巨人」
- 和讃で学ぶ浄土真宗②  
「阿弥陀仏」(佐々木隆晃)

### ●これまでの主な特集記事●

- No.100……100号記念 勸学和上に聞く  
①聖教の眞実性と布教伝道について 樺實圓  
②聖典編纂事業と「季刊せいてん」  
徳永一道・内藤知康・佐々木恵精
- No.102……飛雲閣と聚楽第一聚落第の遺構が否か
- No.109・110……仏教説話と譬喩に学ぶ①②
- No.111……お仏華を知ろう
- No.112・113……せいてん流「仏弟子」入門①②
- No.115……しなやかにつなげる仏事

\*「季刊せいてん」誌のバックナンバーは部数に限りがございますので、品切れの場合はご容赦願います。

お申し込み・お問い合わせは  
本願寺出版社

☎ 0120-464-583  
FAX 075-341-7753

〒600-8501 京都市下京区堀川通花屋町下ル  
1冊700円(税・送料込)

商品に払込取扱票を同梱しますので、郵便局もしくはコンビニエンスストアで料金を払い込みください。

◆「季刊せいてん」バックナンバーのご案内(在庫分)



表紙●特集「せいてん流(仏弟子)入門」①より

112号(秋の号) 2015年9月1日

- はじめの一步I  
真宗(悪人)伝④(井上見淳)  
「下間蓮崇」
- はじめの一步II  
「物語」で読み解く仏教⑦(野呂靖)  
「妖怪と仏教 その二」
- 聖典セミナー  
「歎異抄」③(矢田了章)  
「第二条」
- せいてん誌上講演  
「正信偈」⑪(樺實圓)  
「龍樹菩薩(2)易行道の生き方」
- 和讃で学ぶ浄土真宗③  
「仏の願い(本願)」(佐々木隆晃)



表紙●特集「しなやかにつなげる仏事」より

115号(夏の号) 2016年6月1日

- はじめの一步I  
真宗(悪人)伝④(井上見淳)  
「熊谷直実」
- はじめの一步II  
「物語」で読み解く仏教⑩(野呂靖)  
「植物と成仏 その二」
- 聖典セミナー  
「歎異抄」⑥(矢田了章)  
「第五条」
- せいてん誌上講演  
「正信偈」⑭(樺實圓)  
「曇鸞大師(1)大乘仏教の極致」
- 和讃で学ぶ浄土真宗⑥  
「信心」(佐々木隆晃)

# 季刊せいてん 定期購読のご案内

\*本誌を毎号入手していただくために定期購読をお勧めします。

●年間購読料 2,800円 (税・送料込み)

▲年4回 (3・6・9・12の各月) 発行

\*1部からでもお求めになれます。

●1部 700円 (税・送料込み)

※同じ号を一括して多部数お申し込みいただいた場合には、  
部数割引きさせていただきます。(10部以上10%・50部以上20%)

・お申し込み・お問い合わせは↓

本願寺出版社  0120-464-583 FAX 075-341-7753  
よむよごわさん

〒600-8501 京都市下京区堀川通花屋町下ル <http://hongwanji-shuppan.com/>

## 編 集 後 記

◆60頁でご報告したように、本誌『季刊せいてん』の講座を大阪・北御堂で無事開催することができました。総合研究所・聖典編集担当(編集室はここにありますが)では、これまで「聖典講座」などを京都で開催してきましたので、私たちにとって初の「出張講座」となりました。

「京都から大阪」という、ほんとうに小さな一歩ではありますが、新たな道に入ることができたように思います。今後も一歩一歩あゆみを進め、いろんな場所で、いろんな方々に、み教えとの出会いの場を提供していきたいと考えています。もちろん京都でも頑張ります!(D)

◆表紙にショックを受けてしまった方、申しわけございません。今号は、真っ逆さまに堕ちていく阿鼻地獄です。人物が僧侶なのは「虚しく信施を食らへ

るもの」(七祖818頁)が堕ちるという記述に基づいています。その阿鼻地獄にまでも、阿弥陀さまの救いの光は届いている。このみ教えを抜きにしては、僧侶である私自身、阿鼻地獄の記述に向き合うことはできないのだらうなと思います。(N)

◆「お寺はいま」で取材した「瑞泉寺離郷門信徒の集い」は、ふるさとを島根に持ち、関西や関東で暮らす102名の門信徒の皆さんが、京都の本願寺で一同に会するというスケールの大きなものでした。

聞けばご住職は、ご門徒から連絡があれば、島根から関西や関東にまで飛んで行かれると言っています。そんなご住職に誘われて各地から参加されたご門徒の皆さんもとてもエネルギーで、会場は活気に満ち満ちていました。(Y)

## 投稿募集

◆本誌に対するご感想やご意見、聖典講座についてのご質問など、ふるってご投稿ください。皆様からのお便りをお待ちしております。  
◆あて先は、「〒600-8349 京都市下京区堺町92番地 浄土真宗本願寺派伝道第3本部 総合研究所 季刊せいてん編集室」とご明記ください。◆お送りいただきました原稿はお返しできません。◆掲載分には記念品をお送りいたします。

## 季刊せいてん

NO.119 平成29(2017)年6月1日発行

編集  
浄土真宗本願寺派  
総合研究所  
〒600-8349  
京都市下京区堺町92番地  
発行

本願寺出版社  
(浄土真宗本願寺派)  
〒600-8501 京都市下京区堀川通花屋町下ル  
本願寺門前町60番地  
電話 075-371-4171